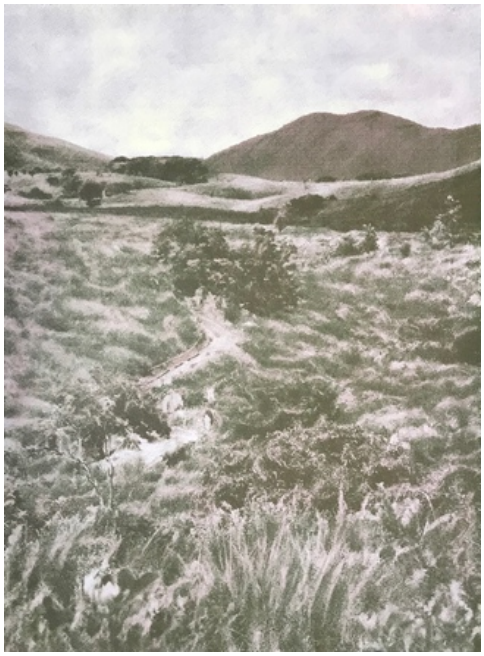
MISA SHIN GALLERY
3-9-11-1F, Minamiazabu, Minato-ku, Tokyo 106-0047 JAPAN
tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335
www.misashin.com info@misashin.com

プレスリリース
2019 年 2 月

Multiples
伊庭靖子、磯崎新、川俣正、小沢剛、篠田太郎

会期：2019 年 3 月 5 日（火）-3 月 30 日（土）
開廊時間：火−土（日月祝休）12:00-19:00

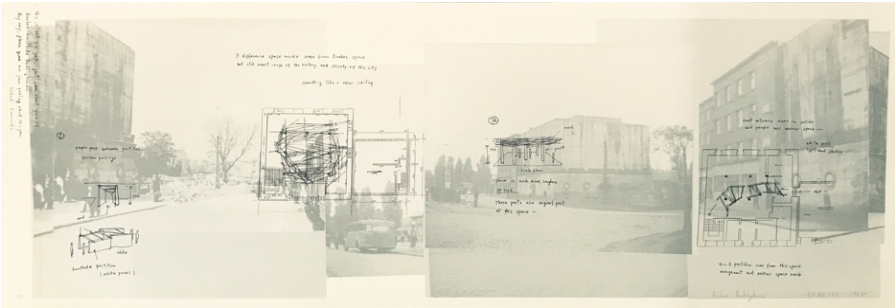


伊庭靖子, 「grain#2018-2」, 2018, silkscreen on BFK Rives, 76.5 x 57 cm (30.1x 22.4 in), edition of 20

MISA SHIN GALLERYは、3月5日（火）から3月30日（土）まで、ギャラリーアーティストによる版画作品のグループ展「Multiples」を開催いたします。

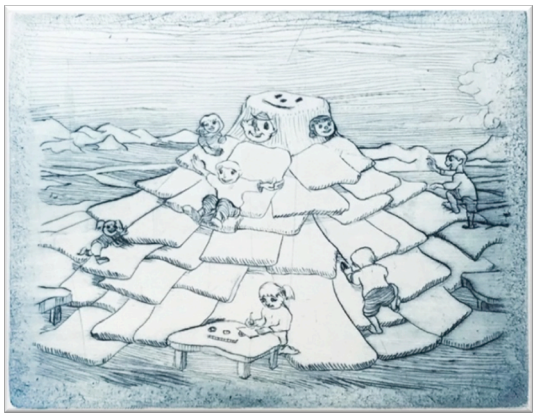
伊庭靖子の新作版画、「grain」シリーズは、モノクロームのように見える色彩に浮かび上がる植物群や風景が、物質感を伴った多数のインクの粒によって構成されています。Grain（粒）の名の通り、あたかもイメージの上に光の粒が舞い降りたような透明感と奥行きが紙の上に現れます。対照的に、磯崎新にとって版画とは、建築のコンセプトを抽象化し、視覚化することにあります。実際の建築は立体であり空間も内包していますが、磯崎が版画で表現しようとするのは、建築家の手から生まれる瞬間のイメージであり新たな解釈であるとも言えるでしょう。

川俣正のシルクスクリーンは、1995 年、ドイツのレックリングハウゼンのクンストハーレでインスタレーション作品を設置した際に制作されました。篠田太郎は、2017 年オークランドアートギャラリーからサイトスペシフィックな作品の依頼を受けた際に、制作の過程で生まれてくる多くのスケッチをもとに、はじめてシルクスクリーンを制作しました。川俣、篠田ともに、制作過程におけるスケッチや写真などの重層的なイメージによって、通常は完成作品しか見ることのない私たちに、プロセスこそが作品の本質であることを教えてくれます。



川俣正, 「Bunker」, 1995, silkscreen print, 34.5 x 99cm（13.5 x 38.9 in）, A.P. 50

MISA SHIN GALLERY
3-9-11-1F, Minamiazabu, Minato-ku, Tokyo 106-0047 JAPAN
tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335
www.misashin.com info@misashin.com



Ozawa Tsuyoshi, *Everyone likes someone, as you like someone,* 2012, etching, 11.5 x 15 cm (4.5 x 5.9 in) , edition of 22 +AP 2

小沢剛の「あなたが誰かを好きなように誰もが誰かを好き」は、通称「ふとん山」と呼ばれるプロジェクトです。東日本大震災後、放射線量の高い地域に住む福島の子供達が戸外で遊べなくなったことに心を痛めた小沢は、福島県立美術館で「ふとん山」を展示します。銅版画の中の「ふとん山」は、インスタレーションとは異なる親密さを伴った、事件を風化させないことへの小さな宣言でもあります。

本展は、通常絵画や彫刻、インスタレーション、建築などで仕事をするアーティストたちの、版画というメディアによる試みでありひとつの実験とも言えます。どうぞご高覧ください。

伊庭靖子 Iba Yasuko
1967年京都市生まれ。嵯峨美術短期大学版画科専攻科修了。主な個展に「まばゆさの在処」神奈川県立近代美術館鎌倉館（2009年）、国内外の多数の展覧会に参加。神奈川県立近代美術館、東京都現代美術館、The Cleveland Museum of Art（米国）など多くのパブリックコレクションに所蔵されている。2019年7月から、東京都美術館で個展「まなざしのあわい」が開催される。

磯崎新 IsozakiArata
1931 年大分市生まれ。1954 年東京大学工学部建築学科卒業。1963 年磯崎新アトリエを設立。以後、国際的な建築家として、群馬県立近代美術館、ロサンゼルス現代美術館、バルセロナオリンピック競技場などを設計。建築のみならず演劇、音楽、評論、思想など分野を横断する活動でも知られる。2019 年 9 月より大分市美術館を皮切りに磯崎新の巡回展が開催される。

川俣正 Kawamata Tadashi
1953 年北海道三笠市生まれ。ヴェネツィア・ビエンナーレ、ドクメンタ、リヨン現代美術ビエンナーレ等、多数の国際展に参加し、欧米を中心に高い評価を獲得し続けている。現在はパリ国立高等芸術学院教授。建築や都市計画、歴史学、社会学、日常のコミュニケーション、あるいは医療にまで及ぶ広い領域に関わった作品制作を行っている。

小沢剛 Ozawa Tsuyoshi
1965年東京生まれ。1991年東京藝術大学大学院美術研究科壁画専攻修了。自らの周辺や美術の歴史などから様々な事象を拾い上げ、ユーモアと鋭い批評精神で制作を続ける。「地蔵建立」、「なすび画廊」、「醤油画資料館」、「ベジタブル・ウェポン」などに代表される作品は国内外で高い評価を受けている。

篠田太郎 Shinoda Taro
1964年東京生まれ。造園を学んだ後に作家活動を開始する。一貫して人間と自然の関わりを深く問う作品は、彫刻、ビデオ、 インスタレーションと多岐にわたり、国際的に高い評価を得ている。シドニービエンナーレ（2016年）シャルジャビエンナーレ (2017年)、森美術館（東京、2010年）など国内外の展覧会にも多数参加。2019年7月からは、ベルリンのMartin-Gropius-Bauにて開催される「Garden of Earthly Delights」展に参加する。

お問い合わせ：info@misashin.com　Tel: 03-6450-2334